



オフENSEの強さとディフェンスの強さ

ハンドの強さを絵札の強さで計るはごく普通で、皆さん方もこれを十分すぎるほど使っていると思いますが、実はこれだけではいけないのです (いつも言い続けていますが) 強さにはオフENSEするときの強さとディフェンスするときの強さを分けて考えねばならないのです

これは競り合いになったときに如実に表れてきます。先日次のようなハンド：

♠KQxx
♥xxx
♦-
♣KJ10xx

を持っていると、パートナーが1Cとオープンし、右に1Hとオーバーコールされました。このハンドをどう評価するとよいでしょうか？フィットがあつて9点を持っています。ただこれだけでハンドの評価にしているはよくないのです。

一般にオフENSEすると多く取れるが、ディフェンスするとあまり取れないハンドはコントラクトを取った方が良く、ディフェンシブトリックがあるときはディフェンスに回った方がよいのです。オフENSEなときは、それがオフENSEであればあるほどプリエンプティブ、つまり先取りしてそのスートで先に高く上がるのがよく、ディフェンスがあるときは、あるレベル以上なら守る方が得です。その判断をパートナーも正しくできるようにキュービッドで示すのです (オポーネントはどういうレベルまで競ってくるか判らないからです)。つまり2Hとキュービッドする意味は、よく誤解されているのですが、フィットして点数があるからそれを示すのではなく、ディフェンスに回った時に自分は取れるカードを持っているという意味なのです。(もちろんそれは点数があるという意味でもあります) 例え

♠Qxx	♠Qxx
♥Kxxx	♥Q10x
♦Qx-	♦Kx
♣Kxxx	♣Q10xxx

のようなハンドです。フィットはしています。そして、そのほかに7点あり、いずれもディフェンスしたときに役に立つ絵札です。最初の例との違いはフィット以外のスートで点数が分散していることです。さて元のハンドに戻ってみると、クラブが少なくとも5-3フィットしました。あとスペードにKQがありますが、スペードもフィットしていると、つまり2スーターフィットしているとオフENSEです。ディフェンスしてクラブでもスペ

ードでもたいしてとれないのが普通です。最初のハンドに戻って考えるとまずスペードがフィットしているかどうかをチェックしに行くのが適切です。スペードのフィットがあると全体の点数は少ないですが4Sも視野に入ってきます。たとえばオープナーが

♠Axxx	♠Axxx
♥Kx	♥x
♦xxx-	♦xxxx
♣AQxx	♣AQxx

くらいのミニマムハンドであっても4Sはレイダウンですし、ことによると6Sもあるかもしれません。もっともこのようなときは相手も2スーターフィットしているので黙ってはいないでしょう。5Hあるいは6Hまで競ってくることを覚悟しておかねばなりません。一般にこちらがよいフィットをしているときは相手もよいフィットをしていると覚悟しておく必要があります。(大事なことは絵札点だけでものを考えるのではなく具体的にハンドをイメージすることです)

スペードのフィットがない場合、たとえば

♠Jx
♥K109x
♦AQx-
♣Axxx

なら3NTがよさそうです。しかし

♠x
♥K109x
♦AQx-
♣Axxx

くらいならディフェンスした方が良さそうです。(2レベル以上ならほぼ確実にダウンさせられるでしょう。一応3C位までまで競って、それ以上ハートで競ってきたらダブルします)

オフェンシブかどうかは

- フィットがある、特に2スーツがフィットしている
- ロングスートに絵札が集中している、そのスートに10,9,8が多い
- アンバランスハンドである

などがポイントですし、ディフェンシブかどうかは

- ミスフィットである
- ショートスートの方に絵札が多い
- バランスハンドである

などがポイントです。常にハンドの評価を多面的に考えるように心がけてください。